

洗足学園音楽大学

# JOINT CONCERT④

~Café de Musika~

## ご挨拶

本日は学内リサイタル講座「ジョイント・リサイタル」においていただき御礼申し上げます。

洗足学園音楽大学のメインステージの前田ホールで、大学4年間の集大成の演奏を披露するために選抜学生39名による6回のジョイント・リサイタルを開催する運びとなりました。各出演日の学生がそれぞれの思いで、プログラムや副題を決め、この日の為に準備をまいりました。専門コースの違いはあっても大きな会場で初めてのリサイタルを行う「責任と研究成果」を聴いていただければ大変な喜びとなります。出演学生が、その独自の構成と演出を競い、教員の講評審査を受けてこの舞台から巣立ち、現在は欧米各地に留学しコンクール入賞者や、国内外オーケストラ、教員、プレーヤーとして活躍する卒業生も多く、本学の講師として活躍するものもいるという喜ばしい実績を持っております。この演奏会を基に日本の、そして世界の楽壇へと羽ばたく彼らに応援の拍手をお願いいたします。

学内リサイタル講座 教授 渡部 亨

本日は洗足学園音楽大学4年生による学内リサイタル講座「ジョイント・リサイタル 4」にお越しいただき、誠にありがとうございます。コロナ禍の影響で、通常とは異なる環境で今回の演奏会の準備を進めて来ました。ホールで演奏会を開く事は、音楽に携わる私達にとってとても幸せな事だと改めて思い知らされました。本日は待ちに待った演奏会です。お越し頂いた皆様と演奏者が共に、心豊かなひと時を過ごせる機会となります様、演奏したく存じます。

本日の演奏会を開催するにあたり、様々な形で御指導、御助力頂きました諸先生方をはじめ関係者の方々、そして本日も越し下さいました皆様に対しまして厚く御礼申し上げますと共に、今後ともより一層の御激励、御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

演奏者代表 弦楽器コース 小野 英駿

2020年10月17日(土) 開演 18:00 (開場 17:30)

洗足学園 前田ホール

主催: 洗足学園音楽大学・大学院

！新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒、手洗い、咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発声が見られた際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

— Program —

1.門脇 克 (トランペット)

J.チータム / 調合  
J.Cheetham // Concoctions

2.小野 英駿 (ヴァイオリン)

J.S.バッハ / 無伴奏ヴァイオリンソナタ1番 アダージョ、フーガ  
J. S. Bach // Sonata for Violin NO.1 Adagio, Fuga

3.金 蘭花 (マリンバ)

T.ゴリンスキー / ルミノシティ  
Tomasz Golinski // Luminosity for Solo Marimba

～休憩 10分～

4.花元 百歌 (フルート・ピッコロ)

Pf.有岡 菜保

G.フォーレ / コンクール用小品  
G. Fauré // Morceau de Concours  
P.ゴーパール / マドリガル  
P. Gaubert // MADRIGAL  
E.ダマレ / 白つぐみ ポルカ・ファンタジー Op.161  
E. Damare // Le merie blanc: Polka-fantasie Op. 161

5.壽美 華音 (声楽)

Pf.小林 万里子

G.フォーレ / リディア  
G. Fauré // Lydia  
G.フォーレ / ネル  
G. Fauré // Nell  
C.グノー / 歌劇《ファウスト》より なんと美しいこの姿  
C. Gounod // “Faust” Ah! je ris de me voir, Si belle en ce miroir

～休憩 10分～

6.近藤 沙耶 (サクソ)

Pf.中村 真幸

J.ブラームス / クラリネットソナタ第2番作品 120-2 1.3 楽章  
J. Brahms // Sonate für Klavier und Klarinette Nr.2 Es-Dur Op. 120-2 1. 3

7.井坂 美月 (ピアノ)

F.リスト / バラード2番 ロ短調  
F. Liszt // Ballade Nr.2 h moll

【曲目解説】

●J.チータム / 調合

ジョン・チータムは1939年、アメリカのニューメキシコ州タオスで生まれた作曲家である。彼は1969年からミズーリ州にあるミズーリ大学コロンビア校で音楽理論と作曲の教鞭を執った。《Concoctions》は同大学のトランペット教授であったベティ・スコット博士のために書かれた作品である。この作品は8つの短い楽章で構成されており、それぞれの楽章は動作や曲の概念、雰囲気を示唆している。

●J.S.バッハ / 無伴奏ヴァイオリンソナタ1番 アダージョ、フーガ

全6曲の導入にふさわしい厳肅な雰囲気を持っている。なおバッハは、この曲の第2楽章をリュートのためにも編曲している。Adagioは4重音から始まり、全曲を通じて重音を多用する。自由な旋律の動きをもちプレリュード風の曲である。Fugaは4弦しかないヴァイオリンで複数声部のフーガを滑らかに弾くのは技巧が必要であり途中で単旋律が現れるが、ヴァイオリンの残響を利用して旋律を支える和音も表現されている。

●T.ゴリンスキー / ルミノシティ

タイトルは「光輝」という意味。2013年ベルギー国際マリンバコンクール課題曲。暗雲のように暗く神秘的なコラールから始まる1楽章冒頭は、リズムカルで対照的な中間部をより一層際立たせている。ハーモニーは重々しくもどこか儚さを漂わせている。光のような疾走感を持つ2楽章は終始不規則で速いパッセージの上にメロディックなフレーズが構成されている。調性も不安定なこの曲はどのように終わりを迎えるのか最後まで注目して聞いていただきたい。

●G.フォーレ / コンクール用小品

フォーレがパリの音楽院の教授をしていたときに、同音楽院の卒業試験コンクールのために書かれた課題曲。前半部分は叙情的な美しいメロディーが流れ、後半は躍動感溢れる軽やかなパッセージが散りばめられその対比が鮮やかな曲。

●P.ゴーパール / マドリガル

作曲者のゴーパールは、20世紀初めに、作曲家、指揮者、フルート奏者として活躍した。この曲は医学アカデミーのBucquoy博士に捧げられた曲である。ピアノのアルペッジョに乗って歌

い出されるフルートの旋律は滋味深い情緒を湛えている。

### ●E.ダマレ / 白つぐみ ポルカ・ファンタジー Op.161

《白つぐみ》は“ポルカ・ファンタジー”という副題が付けられている快活な4分の2拍子の曲である。白つぐみのさえずりを表すかのような跳躍のある旋律が特徴的な主部、目まぐるしい6連符が続く中間部を経て再び主部に戻り、終結部ではテンポを上げて締めくくられる。

### ●G.フォーレ / リディア

フォーレ最初期の作品。この楽曲は「リディア旋法」が用いられており、フォーレの独創的な和声の響きを感じさせる。恋愛を表す抱擁韻から情熱的な愛を感じるが、音楽は常に気品あふれるメロディーで構成されている。

### ●G.リディア / ネル

梅雨のないヨーロッパでは最高に爽やかな恋の季節である6月。恋人を6月の赤いバラや真珠にたとえる愛の歌である。伴奏部の分散和音は鳥の翼の羽ばたきのようであり、転調も多く用いられ、高揚する恋心を表している。

### ●C.グノー / なんと美しいこの姿

歌劇《ファウスト》第3幕、メフィストフェレスの力を借りたファウストはマルグリットに宝石箱を贈る。マルグリットはその箱の中から宝石を見つけ、次々と身に付ける。鏡に映るその姿に〈なんと美しいこの姿〉と舞い上がる心を歌ったのが、この『宝石の歌』である。冒頭部のトリルや伴奏部から宝石の輝きや美しく変化していく自分の姿への歓喜が感じられる。

### ●J.ブラームス / クラリネットソナタ第2番作品 120-2 1.3 楽章

ブラームスの2つのクラリネットソナタは晩年を迎え、創作意欲が衰退していたブラームスがミュールフェルトというクラリネット奏者に触発されて作曲された曲である。

今回演奏するソナタの第2番は終始穏やかに進んでいく。〔第1楽章〕のロマンティックで美しい旋律とは対照的に力強く熱情的だがどこか哀愁を感じさせる〔第2楽章〕そしてブラームスが得意とする変奏曲形式で、美しい叙情的な主題に5つの変奏が続き、華やかなフィナーレを迎える〔第3楽章〕今回第1.3楽章をアルトサクソフォンで演奏する。それぞれの楽章を味わいながら聴いて頂きたい。

### ●F.リスト / バラード2番 口短調

リストはピアノ独奏のバラードを2曲書いており、2番は、1番より演奏される事が極めて多い。9連音符の連続する半音階的進行で始まり、緊迫感のある低音部の息の長い男性的な旋律と、優美で愛らしい女性的な旋律が交互に現れる。Allegro deciso から半音階やオクターブ、和音連打などリスト特有の技巧を用い、幻想的に、且つ嵐のように展開していく。激しく盛り上がったあとは静かに幕を閉じる。雄大な流れの最後に現れる口長調の主題は冒頭主題の見事な変容であり、リストが生み出した極上の旋律であると言えるだろう。